

令和5年度 第1回大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議について

1 参集・ウェブ・書面の併用による会議開催にあたっての意見聴取について

令和5年7月11日（火）開催の「令和5年度第1回大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議」について、参集型会議、WEB会議および書面会議の併用にて開催することとした。

書面参加の委員には、会議資料と同時に意見書用紙を送付し、令和5年7月5日（水）を期限に意見書の提出を依頼した。

あわせて、参集・WEB参加の委員にも事前意見・質問票を任意で提出できることとし、いただいた意見・質問については、以下のとおり一覧としてまとめた。一覧は、委員及び庁内委員に会議の参考資料として電子メール等で送付、情報提供する。

2 各委員からの意見・質問

下記に、各委員からいただいた意見をまとめる。

資料 番号	ご意見・ご質問	回答
4 p. 3	<p>—基本目標2 地域のつながりにより互いにたすけあ いながら暮らせるまち— ・ミルモネットについて</p> <p>前年比増と好調でよかった。さらなる普及、活用をむ けて、高齢者分野、障がい者分野の垣根を越えた見える化 ができると尚よいのではないかと思う。具体的には、障が い者事業所も、登録・閲覧ができること、登録事業者数 が増えると良いと思う。</p> <p>また、登録・閲覧担当者が、事業所以外での「地域住民 の個人」も利用・閲覧できるシステム構築ができると、よ り良い。（すでに、当該システムがありましたら、失礼い たしました）</p>	<p>地域ケア情報見える化サイト（ミルモネット）は、介護保険法に基づきサ ービスを提供する事業者の情報や、NPOや民間企業が提供する保険外サー ビスの情報のほか、地域の住民が運営する通いの場の情報など、区内の貴重 な社会資源の情報を登録・検索・管理できるウェブサイトです。利用にあた ってはアカウントの取得が必要となりますが、アカウントを取得すれば、事 業者以外、例えば通いの場の主催者個人でも利活用が可能です。</p> <p>ミルモネットは、主として地域包括支援センターや居宅介護支援事業所 等、専門職による総合相談業務での活用を想定しており、ミルモネットを 広く一般に公開することは設計の段階から想定しておりません。</p> <p>なお、障がい者向け事業所の登録拡大につきましては、システムを運営す る事業者のほか、主な利用者である地域包括支援センターや居宅介護支 援事業所等にご意見を伺いながら、今後のシステム活用における参考とさ せていただけたらと思います。</p>

<p>4 p. 4</p>	<p>・地域資源マップの活用セミナーについて 「作成したマップ」が、未活用になるのでは勿体ないと思う。当該マップは、地域住民等への普及方法、活用方法についての計画案は、区内関係各位で共通認識しておくと思う。方法論の中では、属人的に頼らない観点からでは、ネット上での普及や（遠方の家族も情報得やすい等）、地域住民が日常生活の中で、集まりやすい民間資源のスーパー、コンビニエンスストア等の協力を行政主導で連携構築をしていく事は、効果的かと思う。</p>	<p>地域資源マップについては、地域包括支援センターに配置した見守りさえあいコーディネーターのスキルアップ研修の教材として、東京都健康長寿医療センターにご協力いただきながら作成したものです。この研修は、ミルモネットに登録された地域支援情報や高齢者の地域分布状況等を地図上に表示した資料を基に、あらためて自らの地域の状況を把握し、理解を深めていただくことをねらいとして実施いたしました。</p> <p>社会資源や社会参加活動の見える化については、現在、東京都をはじめ様々な検討が進められており、区においてもミルモネットの活用拡充を基軸に、引き続き取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>施策</p>	<p>高齢福祉課高齢者支援担当（介護予防）で、現在、実施しているのは、スマートフォン相談会で受け身だが、高齢者の生活や活動支援、認知症支援など、インターネットやアプリ、AIで、どのようなことができるのか、高齢者がもっと恩恵を受けられるような設計にした方が良いのではないか。</p> <p>大田区の高齢者が行政のデジタル化等への知識、講習等ですでに実績がある周辺の区市との格差は大丈夫か。</p>	<p>高齢者向け事業については、現在実施しているスマートフォン体験会や相談会などの ICT の活用促進を図る取組のほか、見守りキーホルダー登録にあたって、利便性国情につながるよう、東京共同電子申請・届出サービスによる電子申請の利用に向けた整備を図りました。</p> <p>総務省の調査によると 60 歳代のインターネット利用者は 8 割を大きく超えており、60 歳代は、国民全体の利用率を上回るほど、利用されており、高齢者に対するインターネットの利用は、意識しないコンピュータ社会と言われる、ユビキタスコンピューティング社会となっており、有為にデジタル格差が発生する行政単位で障壁が生ずる社会ではないと認識しています。</p> <p>AI の利用については、その生成結果が適正なものかの判断が難しく、高齢者になじむものなのか、技術的な課題も多く、また、ホームページやデジタルコンテンツに組み込むには技術者が少なく簡単には組み込めないのが現状です。</p> <p>今後は、高齢者に意識しないコンピュータ利用やコンテンツの提供に努め少しでも障壁を感じる事が無いよう努めてまいります。</p>
<p>なし</p>	<p>「高齢者の就労・地域活動の支援」施策とも方向性が一致する、東京都健康長寿医療センター研究所・社会参加と</p>	<p>ご意見いただいた内容は、(公財)長寿科学振興財団の高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成採択プロジェクトにおいて採択された東京</p>

<p>地域保健研究チームが実施予定の③デジタル技術を活用し、高齢者の就労・社会貢献活動促進（高齢者が仕事を見つけ、デジタルスキルの向上で地域社会に貢献する機会を獲得する）のモデルケースにおおた基本目標 1 の活性化の為に参加することはできないか。</p>	<p>都健康長寿医療センター研究所のプロジェクトのこととお見受けします。</p> <p>既に動き出しているとみられる当プロジェクトについては参加には至りませんが、「高齢者の就労・地域活動の支援」は、重要な施策の一つであり、事業や取組の展開方法については、関係機関等との連携のもと、また、デジタル技術活用の可能性も踏まえつつ、検討を図ってまいります。</p>
---	--